

令和5年度 第3回和光ブランド認定推進委員会議事録

日時 令和5年8月31日(木) 13:30～

場所 和光市役所6階 602会議室1

出席委員 1号委員 郭 洋春 (立教大学 経済学部 教授)
西田 英樹 (西田公認会計士・税理士事務所 代表)
2号委員 岡崎 治 (和光市商工会 商業部会長)
3号委員 関谷 滋 (有)ヴァル・クリエイティブエージェンシー 代表取締役社長)
3号委員 森 洋子 (猫森キッチン主催 料理研究家)
4号委員 加藤 雄大 (公募委員)
4号委員 小林 美也子 (公募委員)
(事務局)
市民環境部次長兼産業支援課長 平川 京子
産業支援課課長補佐 大里 裕美子
産業支援課産業育成支援担当統括主査 南雲 圭介
産業支援課産業育成支援担当 山本 佑美
欠席委員 2号委員 牛場 寛 (あさか野農業協同組合 和光支店 支店長)
傍聴者 0人

議事内容

(1) 和光ブランド認定審査(更新含む)における評価(採点)方法について

- ・和光ブランド認定基準(案)
- ・和光ブランド認定審査評価表【新規用】(案)
- ・和光ブランド更新認定基準(案)
- ・【調書】和光ブランド認定更新申請用(案)
- ・和光ブランド認定審査評価表【更新用】(案)

(岡崎委員) 資料1-3の適用法令とはどのようなものが挙げられるか。

(事務局) 例えば食品であれば食品衛生法など、業種や商品ごとに関連する法令を想定している。

(郭委員長) 有害物質など法令違反に値する物質を使用していないかなど、認定前に確認しておく必要がある。

(西田委員) 許可書や免許証があれば提示してもらい、事前に事務局で審査してもらいたい。

(加藤委員) 新規認定基準のうちA(主に和光ならではのもの)又はB(主に和光の名産になり得るもの)を選択する際の基準がなく、判断に困るのではないか。

(郭委員長) 分かりやすいように、具体例を加えるなどしたらどうか。

(事務局) 周知するときに説明書きをつける。

(小林委員) AとBのどちらを多く認定したいかなど何か考えはあるのか。

(郭委員長) 結果的に偏る可能性はあるが、特にはない。

(2) 認定品目の更新審査

【エポカル 3WAY UV カット帽子】株式会社ピーカブー

- ・プレゼンテーション
- ・質疑応答

(西田委員) どこで購入できるか。

(申請者) 和光市総合体育館と自社サイト（インターネット）で購入できる。

(西田委員) スポーツ用の販路やデザインなど、要望はないか。

(申請者) 紫外線を浴びることにより免疫低下でパフォーマンスが落ちると言われており、各種スポーツで紫外線対策が課題となっている。

スポーツウエアやキャップはすでに取り扱っており、その他にアウトドア製品もある。

(小林委員) 当該商品は子供用だけなのか大人用もあるのかラインナップを知りたい。

(申請者) 子供用から大人用まで取り扱っている。

(関谷委員) ふるさと納税返礼品の協力事業者への申請は行っているか。

(申請者) 生産・製造が市外で、企画・販売のみを市内で行っているため要件から外れる。

(岡崎委員) 洗濯しても UV 効果が落ちないのは素晴らしい。理化学研究所と研究したのか。

(申請者) 確認の段階で理化学研究所の先生方に協力いただいた。

(西田委員) 理化学研究所との共同開発品など出せるか。

(申請者) 共同開発となると、理化学研究所からの許可がなかなか下りない。

(加藤委員) スタッフを増やしているとのことだが、アルバイトや業務委託というかたちか。

(申請者) 子育てをされている方などをアルバイトで柔軟に雇っている。

(加藤委員) 洗濯表示は付いているのか。

(申請者) サンプル品には付いていないが商品には付けている。

(郭委員長) 商品の素材がポリエステルを使っており、洗濯するとマイクロプラスチックという海洋生物に悪影響を与える物質を出してしまうが、今後別の素材に変えていくなど、環境負荷を軽減するような考えはあるか。

(申請者) 色々な生地メーカーと UV カットできる他の素材がないか話し合っており、サステナブル素材を採用できないか検討しているところである。

【「佐介 sake」石鹼】ふくろふのてて

- ・プレゼンテーション
- ・質疑応答

(岡崎委員) 富山県での製造は何か理由があるのか。

(申請者) 薬機法の関係で自分たちでは製造と販売ができないため、化粧品を作っている企業に OEM というかたちをとっており、その工場が富山県ということである。

(岡崎委員) 他で同様の商品は出回っているか。

(申請者) オイル以外の香り・日本酒・酒粕は自分達で用意しているため、完全オリジナルである。

(西田委員) 全国的に酒の石鹼はあるが、他との違いは何か。

(申請者) 日本酒を使った石鹼は確かに多くある。

どうしても日本酒にこだわりたかったのは、古くから日本酒が清める場面で使われてきたことから、1日の疲れやけがれを清めるために欠かせないものと考えたからである。

更に、アロマの香りで癒やされてもらいたいという気持ちで作っている。

(西田委員) 和光ブランド認定による反響はあるか？

(申請者) 和光ブランドだから安心だと言って購入される方が多い。認知度も売上も伸びている。

(小林委員) 和光らしさという点で弱いという認識があるようだが、これまでこんなことをした、今後どうしていくといったようなことは何かあるか。

(申請者) 石鹸に和光の物(素材)を取り入れるということは難しく、和光らしさという部分では弱いものと考えている。自分達が20年以上研究し作ってきた努力を評価いただきたい。

(加藤委員) アマゾンや楽天などで展開していく予定はあるか。

(申請者) びじょネットオンラインマルシェやBASEでは販売しているが、アマゾンや楽天などへの展開はなかなか手が付けられず、自分達のできる範囲で販売している。

植物素材とはいえアレルギーを持っている方もおり、実際に手に取って見ていただきたいので、オンラインよりも実店舗で販売できる店舗を増やしたい。

(加藤委員) リアルチャネルで目が届く範囲で売っていくところに重点を置くという戦略か。

(申請者) そのとおり。

(西田委員) 1,980円という値段は一般的に高いのか安いのか。

(申請者) オーガニックや植物無添加の材料を使っていることを考えれば、安い設定である。

利益が少なくても、肌トラブルで本当に悩む方などに良かったと感じてもらえたらよい。

(郭委員長) 日本酒はどこのもを使っているのか。

(申請者) 浦和の内木酒造、旭政宗という大吟醸を使っている。

(郭委員長) 埼玉県には30近くの酒蔵があり、和光にないのであれば少なからず埼玉の酒を使っていることには意味がある。サステナブルやオーガニックの視点の他に、エシカルという視点を取り入れることでよりオンリーワンに繋がる。

和光らしさが難しいということであれば、「和光の佐介 Sake 石鹸」など、商品名に「和光」を入れてみてはいかがか。和光には理化学研究所やホンダ技研工業があり、いわゆるサイエンスシティーのようなものを目指すなかで、酒とアロマを組み合わせた石鹸を和光で作っているという和光ブランドとしての認知が広がると考える。是非検討してもらいたい。

【王様のマドレーヌ・王様のフィナンシェ】株式会社 NOSIDE

・プレゼンテーション (事務局説明)

・質疑応答

(西田委員) 箱の表示がリニューアルされたようだが。

(事務局) これまでなかった WAKO という印字が入った。

(小林委員) 和光ブランド事業の活動については市から働きかけがあれば協力するとのことだが、市と企業のどちらが主導するものなのか、何か決まりはあるか。

(事務局) 特に決まりはない。例えば、児童向けの講義をしてほしいなど小学校から市に依頼がある場合もあり、また、学習の一環で児童が和光ブランドに認定されている店舗を訪問することもある。その他に、市で把握していない部分での活動は多くある。

(小林委員) どちらかと言えば受け身である。また、あまり地域でのイベントで見ない気がする。

(森委員) 地域のお土産として信用度は強いはずなのに勿体ないと思う。

(関谷委員) 昔は出ていたが途中から出なくなったのであれば何か事情があるかもしれない。

どこもそうだが、人手不足と働き方改革などで洋菓子屋さんには疲弊している。

(事務局) 過去には市のブライダル事業に協力してもらったことがある。

他にも公民館などでお菓子づくりの講座に協力してもらったり、店舗内の交流スペースが地域の団体やサークルの活動拠点となっていることもあり、地域との交流が図られている。

(関谷委員) 和光ブランドとして、市民との関わりという部分は大きな要素の1つであると考え。

(郭委員長) 要望としてそういった点を事務局から伝えてもらいたい。

(西田委員) 試食をしてみたらパサパサしていた。

(事務局) 予め事務局でカットしており、空調の影響もありパサつきがあるのかもしれない。

(関谷委員) 提供の仕方では印象が大きく変わるため、試食を出すときは原型のまま出したほうがいい。

(加藤委員) パッケージや表示なども見てみたかった。

審査結果 (50点満点/合格基準点 35点)

- ・エポカル 3WAY UV カット帽子 (株式会社ピーカブー) : 審査平均点 44.7 点 <更新>
- ・「佐介 Sake」石鹸 (ふくろふのてて) : 審査平均点 36.0 点 <更新>
- ・王様のマドレーヌ・王様のフィナンシェ (株式会社 NOSIDE) : 審査平均点 : 39.1 点 <更新>

意見

(関谷委員) 審査するうえで各委員の考えや思いに個性があり、客観的に見て、総合的に非常によい形で点数が落ち着いたと思う。

(西田委員) これまでは和光ブランドを増やすとった方向性だったが、今後は和光ブランドの信頼性や顔、ブランド性の確立を目指していかなければならない。

(小林委員) 他市の例では、一度認定されたものは一定期間経過すると卒業させている。
新しい物が入ってきたら卒業させるといったような入替りの仕組みがあってもよい。

(関谷委員) 今回の審査結果や意見などを各事業者へ連絡すると思うが、どう受け止めてくれたか、その後の反応などが知りたい。事務局で聞き取ってもらい次の更新審査の際に委員会に報告してもらいたい。

(郭委員長) 今回更新審査するうえで、各事業者が資料をしっかりと準備してきており、この5年間の取組が前向きであった印象である。また、和光ブランド商品の認知を広めたいという気持ちがよくわかった。

一方で、地域ブランドという枠組みの中では、和光ブランドに相応しいものと認定しづらいものがあり、和光のものを使った一次産品は分かりやすいが、工芸品など和光らしさが弱いものについては、いかにブランドとして育て上げていくかが課題であり、今後も検討していけたらと考える。

(3) その他

事務局から今後の予定について連絡

- ・和光ブランド事業を含む観光に関する業務が10月から企画部秘書広報課シティプロモーション担当に移管されることについて
- ・次回、令和6年1月中旬に第4回を開催予定